福島町定住促進・少子化対策プロジェクト

福島町まちづくり町民フォーラム

（平成24年度第2回）

と　き：6月28日（木）午後6時～

ところ：福島町役場　機能回復室

総務課企画グループ

会　議　次　第

１．事務局あいさつ

２．「子どもや若者の居場所づくり」及び「学びと実践」の連動について、
　　具体的取り組み策のグループ提案の作成（資料１）

３．その他（今後の予定）

資料　1

平成２４年度　第２回町民フォーラム検討課題

【若者定住促進及び少子化対策に関する課題】

１．若者定住促進の課題

ア　雇用・就労の場づくり

本町は、人口減少が進み、まちの魅力も輝きを失いつつあります。雇用環境が不十分で、町内には若者や子育て中の女性等が希望する職場、職種も少なく、町外に安定した職を求めて転出しています。町外からの若者等の転入者も期待しにくい状況にあります。

このため、若者や子育て中の女性等の雇用・就労の場の確保に向けて、企業誘致や若者等の起業家育成、起業に向けた環境づくり（地場資源を活用した新たな産業・産品づくり等）の推進による、新たな職場づくりが課題となっています。

イ　独自性のある生活の魅力の向上

雇用・就労の場づくりと共に、若い男女が出会える場や機会づくりも当面の課題です。

若者は町内で、勉学に励むとともに、生活の楽しさや豊かさを実感できるカフェやファーストフード等の手軽な飲食の場や、安定した職を持ちカラオケ等の娯楽や遊び、スポーツやイベントなど多様な機会を通じて異性との出会い、語らいや交流を楽しめる場などの魅力も必要と考えています。

また、雇用・就労の場の確保と同時に、単身者や若者世帯の定住促進に向けた住宅の確保の課題となっています。

日常の生活環境の充実、若者が憩い集える居場所など、「学び」、「遊び」、「働く」の連環した生活環境充実のため、生活者向けサービスの集積が課題です。

２．少子化対策の課題

本町では、年々出生数が減少し少子化が進むとともに、子どもを安心して産み育てる環境も不十分になってきています。子育てサポートの充実や小児科、産婦人科等の専門医療や緊急時等の不安解消に向けた仕組みづくりが課題となっています。

子どもの減少と同時に、子ども達が安心して遊ぶ場も減少しています。子どもを中心にして親子で気軽に集い遊び学べる場、乳幼児の保育環境（一時保育や一時預かり、延長保育等）の充実により、子どもがいても共働きできる環境づくりも課題です。

【第２回町民フォーラムでの検討課題】

Ⅱ　子どもや若者の居場所づくり

１．子どもの居場所づくり

①子育て支援として保育施設、幼児の学びの場、親子での出会いの場づくり

②地域の特性を活かした場づくり

２．若者の居場所・交流の場づくり

①生活関連サービスの集積・創出による場づくり

②イベント等の活用による場づくり

Ⅲ「学びと実業」の連動

１．福島商業高校との連携

①福島商業高校の存続

【目指すべき方向】

Ⅱ　子どもや若者の居場所づくり

１．子どもの居場所づくり

子どもの居場所（学び、学習、交流、遊び）が限定的になり、グループ（集団）活動の場も減少し、社会性を育むうえでの不安も提起されています。

子どもの居場所を整備することにより、子どものコミュニティづくりを進め、子どもの笑顔が街中にあふれることにより、安心して子どもを産み育てる機運が高まることが期待できます。

同時に、子育て中の母親の不安も減り、母親がボランティア活動やＮＰＯ活動に参加する可能性も広がり、多様な活動が創出されることが期待されます。

２．若者の居場所・交流の場づくり

町の魅力づくりに向け、中高校生、若者の居場所（学び、交流、出会い、遊びの場）づくりを進めることで、近隣町からの若者の流入と、差別化が期待できます。

市街地に創出される飲食の場（フードコート等）で出会い、交流を楽しむとともに、活動の場として、学校施設などの遊休施設を利活用し、総合型地域スポーツクラブ等の仕組みを活用し生涯学習、生涯スポーツを通じて、多くの仲間たちとの絆を深め、地域の子ども達や中高年齢者とも触れ合いを深め、若者世代が街中で自由時間活動を楽しむ、新たな地域文化の創出が期待されます。

Ⅲ　「学びと実業」の連動

１．福島商業高校の存続

本町には、道立福島商業高等学校があります。本校は本町の教育に大きな役割を果たしてきており、町民のシンボルの一つでもあります。しかし、現在存続の危機にもあります。産業の発展や生活・文化の高度化に向けて教育は無くてはならないものです。

商業高校として持つ機能と時代の求めるニーズを融合させるよう、新たな役割を認識し学校と町と町民が一体となってカリキュラムを提供することにより、役割の拡大が期待されます。

【参考】

北海道福島町幼.小.中.高等学校児童生徒数

年次	小学校								中学校					幼稚園		
	福島小	吉岡小	白符小	千軒小	浦和小	岩部小	日出小	小計	福島中	吉岡中	千軒中	岩部中	小計	吉岡幼	福島幼	小計
S63	515	189	61	13	9	3		790	333	121	20	4	478	23	66	89
H５	418	116	37	7	7	H4廃校		585	283	76	2	H4統合	361	26	40	66
H10	295	99	25	5	H9廃校			424	216	52	H9統合		268	24	30	54
H15	220	68	12	廃校				300	154	36			190	19	29	48
H20	178	49	廃校					227	95	29			124	14	12	26
H21	170	39						209	92	29			121	14	13	27
H22	160	43						203	107	統合			107	17	7	24
H23	147	36						183	118				118	13	14	27
H24	139	38						177	106				106	9	19	28

福島小、吉岡小児童数（H24.5.1現在）

学年	福島小	吉岡小	計
6年生	31	9	40
5年生	26	5	31
4年生	25	3	28
3年生	22	6	28
2年生	20	6	26
1年生	15	9	24
計	139	38	177

福島中学生徒数（H24.5.1現在）

学年	福島中
3年生	34
2年生	44
1年生	28
計	106

福島高校生徒数（H24.5.1現在）

学年	福島商校
3年生	25
2年生	15
1年生	27
計	67

吉岡幼稚園、福島幼稚園児数（H24.5.1現在）

年齢	吉岡幼	福島幼	計
5歳児	6	6	12
4歳児	1	8	9
3歳児	2	5	7
計	9	19	28

福島保育園児数（H24.5.1現在）

年齢	園児数
5歳児	10
4歳児	9
3歳児	6
2歳児	6
1歳児	1
0歳児	0
計	32

Ⅱ　子どもや若者の居場所づくり

【課題：１．子どもの居場所づくり】

個別テーマ	内　　容	取り組み案	重要度・緊急度	住民・事業者等の役割	備　　考
①子育て支援として保育施設、幼児の学びの場、親子での出会いの場づくり	保育所・幼稚園の充実、子どもの一時保育、託児所付き施設 、育児サロン、学習(習い事)の場、遊び場づくりを進める。				
② 地域の特性を活かした場づくり	福島地区や吉岡地区等の市街地が持つ特性を活かして、学校施設などの遊休施設を利活用し、総合型地域スポーツクラブ等の仕組みを活用し、スポーツはもちろん、地域子育て支援センター、ファミリーサポートセンター　学童クラブ、文化さらには婚活（若者の異性との出会い）までを含め運営するなど、新たな地域文化の創出を進める。（地域間の相互交流と域内交流の促進）				

【課題：２．若者の居場所・交流の場づくり】

①生活関連サービスの集積・創出による場づくり	若者の求める、生活関連サービスを若者の参画を得て市街地に集積し、出会いや・交流のできる場を創出する。				
②イベント等の活用による場づくり	生涯学習、生涯スポーツの自由時間活動を通じて交流、親睦を深め、活動をコアにして、継続性あるイベント開催等を若者が企画・運営することで、出会いの場や機会を楽しみの場として創出することで、町づくりへの参加意識、定住意識を高める。				

Ⅲ　「学びと実践」の連動

【課題：１．福島商業高校との連携】

① 福島商業高校の存続	学校と町民の連携により、水産業・農林業・商業・観光業の専門家育成や生活関連小産業の創出に向けたカリキュラム提供等により、高校を卒業した若者の流出を防ぎ、町外からの福島商業高校への入学生等の増加を図る。				

北海道福島町
定住促進及び少子化対策プロジェクト

福島町まちづくり合同会議結果
（平成 24 年度第１回）

開催日時：平成２４年５月３０日（水）
　　午後６時～午後８時２０分
場　　所：福祉センター音楽室

昨年度の提言書に基づき「多様な雇用・就労の場の創出に向けた取り組み」について、町民フォーラムがグループ毎に取組み（案）を検討した結果について、推進会議委員の方々の協力を得て重要度・緊急度の高いと思われる取り組み（案）を中心に再検討を行い、グループ毎に発表されたものを、事務局において取りまとめたものです。

なお、【備考】欄は今後の検討課題等です。

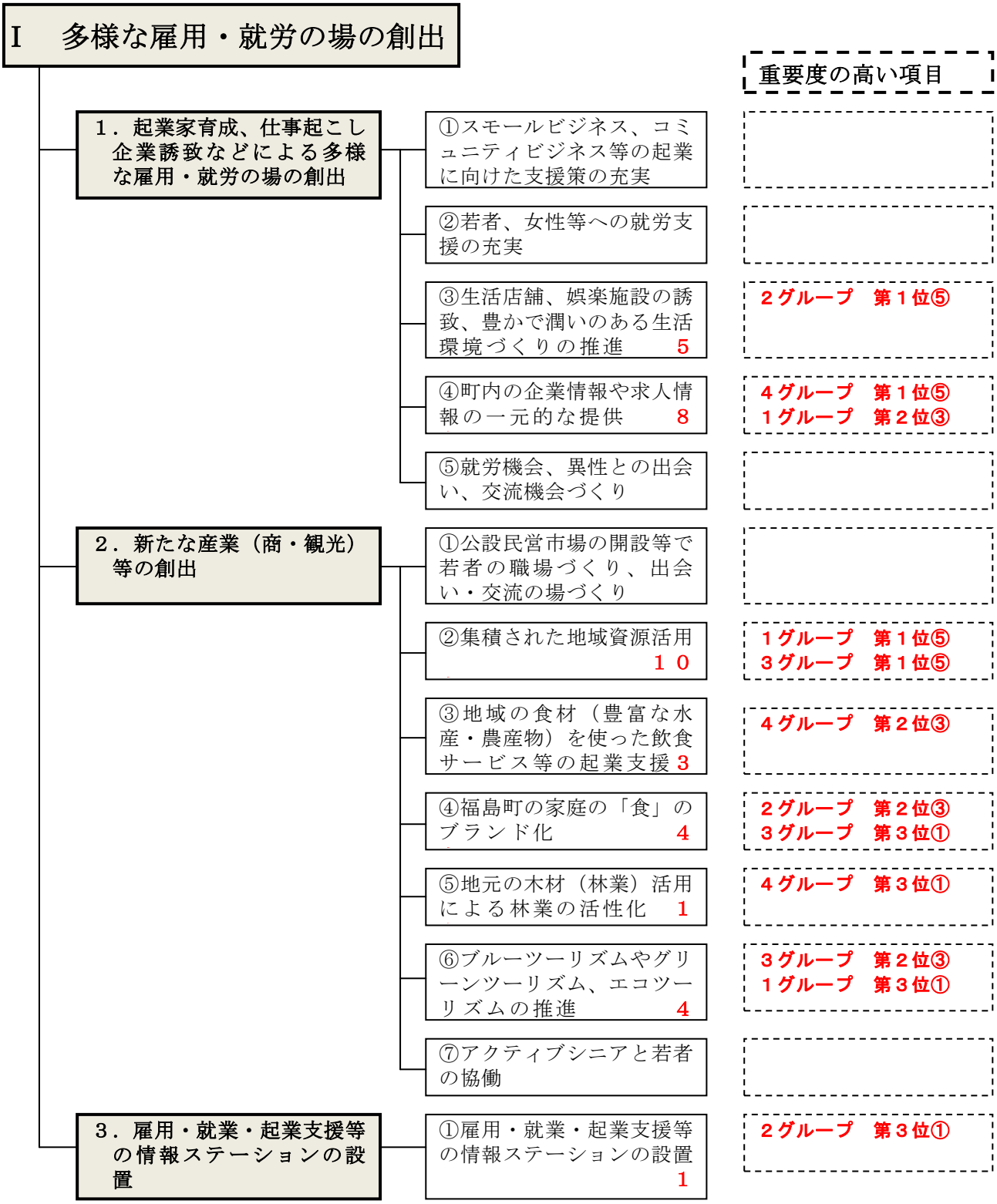
◎多様な雇用・就労の場の創出

水産、農林、商・観光、福祉関連分野への若者の就労、起業等に向けた学びや、中高齢者がこれまでの経験や知識を生かして活躍できる場づくりを推進し、多様な雇用、就労の場が確保されることにより、就職希望の高卒者や職を求める若者や女性が地域で活躍する場面が増え、町が活性化され、町外からの若者の移住者も期待されます。

短期的には、稼働率の低い公共施設等について、本町の住民ニーズ、地域・時代環境に的確に対応したサービス提供に向け、施設の設置目的に副った新たなサービスソフトの開発による多機能化を進めることで、就労の場を創出するとともに、ホスピタリティ性を高めることで町民の満足度を高め稼働率の向上につなげます

（町民フォーラム提言書H24.２より）

【施策の体系（仮）】



注）取り組み課題の数値は「重要度・緊急度」の合計ポイント
（第１位５Pt、第２位３Pt、第３位１Pt）

Ⅰ　多様な雇用・就労の場の創出

１．起業家育成、仕事起こし、企業誘致などによる多様な雇用・就労の場の創出

①スモールビジネス、コミュニティビジネス等の起業に向けた支援策の充実

（重要度・緊急度：　　）

市街地にある利用可能な遊休施設については、安全性を確保したうえで、若者や家庭や子どもを持つ女性の新たな雇用・就労の場として、目的、活用方法を明確化し、生活関連サービス提供拠点として活用する。

【具体的取り組み】

◎遊休施設の効果的活用

・アンテナショップ、空き店舗を無料で貸出、起業を支援する。
・利用可能な遊休施設を明確化し、維持費をデータ化する。
・土日も開放している保育施設等（学童、保育施設はあるが土日は開いていないため）。
・体育館と福祉センターをくっつけたような運動施設と文化施設を合体した施設（老人も子どもも集まりやすい）。

【住民・事業者の役割】

・利用可能な施設等の情報提供への協力。

【 備　考 】

・チャレンジショップの開設や若者や女性グループ、福島商高生等へ共創の働きかけ
・道の駅との機能分担や町産品（水産物、農産物）等の直販所の設置（福島商工会、観光協会との連携）などの検討
・利用可能な町内遊休地、施設の把握（空き施設バンク、まちづくり会社の設立など）

②若者、女性等への就労支援を拡充

（重要度･緊急度：　　）

若者の自立に向けた職業体験と就職（再就職）支援のための学習機会や起業支援、アラサー・アラフォー世代の女性のニーズに応じたキャリア活用、キャリアアップの機会を創出する。

【具体的取り組み】

◎中高校生の職場体験、若者、女性等への技術習得機会の拡充

・カルチャースクール（料理教室や資格取得支援）の開設。
・職業体験の長期化、助成（インターシップなど中高生以外にも）制度。
・町外の若者の職場体験（インターシップ）、　お試し期間（体験雇用）。
・職場体験の充実（他町へ行く等）。
・子どもの面倒を見る場所に、子育てを終えた女性などを集める。
・長期的な資格取得講座。
・商業高校で一般向けに技術取得の講座（夏休み等に先生に協力してもらえないか？福島町ジョブカフェみたいなものができないか？）。
・女性が興味を持つような習い事や教室を開く。
・モニター（ブログ）の就労支援。
・イカ刺しを作る教室や、千軒そば打ち教室を行う。
・地元の物を使ったＢ級グルメなどをつくる。

★ポイント：

・近隣町（４町）を対象にして対応（福島町のハローワークを作り、ハローワークを通して町の人を雇用したら補助金等を出す）。
・ハローワークは町（行政）が設立するが、外部化し運営は人を雇い雇用を発生させる。
・ハローワークには就職支援・相談の窓口も設置。
・インターシップ、水産、農林の担い手等もハローワークで管理し、企業への就職とあわせて提案できるようにする。

【住民・事業者の役割】

【 備　考 】

・中高校生の課外授業として連携は可能なのか（中高校との取り組みについて、教育委員会、学校等の連携）
・若者や女性層の職場体験を通じて仕事への適性や職を通した「自己実現」の「気づき」への橋渡しをする。（生涯学習の仕組みの検討）
・情報ステーションの整備との連動

③生活店舗、娯楽施設の誘致、豊かで潤いのある生活環境づくりの推進
（重要度・緊急度：２グループ１位）

商店街の活気が失われつつあり、町内での消費が低下している。商店街の活性化に向け、若者・女性層の生活消費を町内に呼び込む必要がある。

商工会、商店街連合会等と行政が協働し、商店主や若者・女性の協力を得て、モデル店舗の設置に取組む。

【具体的取り組み】

◎コンビニ併設型特産品売り場を開設する（コンビニと特産品コーナー、カフェスペースが併設せれた、イートインを可能とした施設）。

・アンテナショップ→町内にもつくる。
・道の駅に食堂をつくる。
・特産品を１箇所に集める。
・温泉に食堂（千軒そば）を設置。
・空き店舗を活用して娯楽施設を造り、若者の目を町内へ。

★アンテナショップ、道の駅について

店として美味しいものは福島町内に幾つもあるが、それが今、点として存在しているのが現状である。そこでそれらを集約する場として（道の駅に）食事ができる場所を作る。小さな規模（簡易的な施設で可）でスタートさせ、ニーズをリサーチし結果を評価し、段階的な規模拡大をめざす。

「千軒そば」のような、地域の食材を使った飲食店の経営により、食材や飲食のブランド化や観光ＰＲ雇用の創造にも繋がる。

※点として存在しているもの例

千軒そば、黒米、横綱スルメ、やわらか昆布、千切り昆布、昆布塩、なりやさんのケーキ、ばんらい軒さんのギョウザ、タイムさんのタイム風焼きそばｅｔｃ。

◎生活店舗、娯楽施設の誘致

イカ・昆布など地域の特産品の活用と、カフェ等の飲食、ファミレス、ファッション衣料店、書店、ＣＤショップ、ゲームセンター、カラオケ等の誘致により若者、女性の就労の場を拡充する。

【住民・事業者の役割】

・町内各商店との連携方法の検討（商工会、商店街連合会等との連携）

【 備　考 】

・公設民営市場等の設置
・町内各商店との連携方法の検討（商工会、商店街連合会等との連携）

④町内の企業情報や求人情報の一元的な提供

（重要度・緊急度：４グループ１位、１グループ２位）

水産業の町として水産業（昆布等）で所得を得られることや、町内企業の求人情報等を若者に一元的に提供する。

【具体的取り組み】

◎昆布養殖事業等のモデル化の確立

漁業協働組合が若い人へ事業マニュアルの提供。

・マニュアル的なものを作って、新規就業しやすくする（現実的にはハードルは高い）。
・漁組、漁業者、役場協力のもと、経費等の把握を行い事業マニュアルを作成する。
・事業実施方法、事業収支などがわかる具体的マニュアルとする。
・漁業協働組合で漁業区画がいつ空くのか等の情報を発信。

◎町内向け求人情報等の一元化

求人情報の明確化し、事業者の情報を役場が一元的に情報提供し、町内向けのハローワーク機能を果たす。

・高校生に対し、収入などの業界情報、求人情報などを集約した情報を提供する。また、昆布のアルバイト情報等も提供。
・書面やインターネット、メールマガジンを活用した求人情報の提供。
メールマガジンのこまめな発行と各事業所のアルバイト等の求人情報の把握。アルバイト情報等を一括で管理し送信（各関係機関の協力が必要）。

【住民・事業者の役割】

・モデル化に向けての協力
・メルマガへの情報提供の積極的な提供

【 備　考 】

・３－①情報ステーションの設置と連動

⑤就労機会、異性との出会い・交流機会づくり

若者や女性が安心して就労できる環境を整えるとともに、就労の場での出会い・交流を拡充する機会づくりを推進する。

（重要度・緊急度：　位）

【具体的取り組み】

◎異性との出会いを目的としたイベントの開催

・各種事業所等が連携した定期的な合コンの開催。

・街婚イベントの開催。

◎生涯学習活動の充実

・職場体験の充実（他町へ行く等）。

・長期的な資格取得講座。

・商業高校で一般向けに技術取得の講座（夏休み等に先生に協力してもらえないか？福島町ジョブカフェみたいなものができないか？）。

・女性が興味を持つような習い事や教室を開く。

・イカ刺しを作る教室や、千軒そば打ち教室を行う。

・地元の物を使ったＢ級グルメなどをつくる。

・モニター（ブログ）の就労支援

◎子どもの保育環境の充実

・いつでも子どもを預かってもらえる子育て環境の整備（預かり保育の拡充）。

【住民・事業者の役割】

・行政による預かり保育の見直し・拡充

・町内企業に協賛してもらい、各企業の独身者に積極的に参加するよう支援してもらう。

【 備　考 】

・チャレンジショップの展開

２．新たな産業（商・観光等）の創出

①公設民営市場の開設等で若者の職場づくり、出会い・交流の場づくり

若者自身が求める環境（飲食・出会い、交流等）づくりに参加できる場として、また子育て中の母親の就労の場として、遊休施設を活用し公設民営市場等（地場産品活用のフードコート等）の設置により、新たな職種の開発を進める。

（重要度・緊急度：　　位）

【具体的取り組み】

Ｉ－１－③と同じ

【住民・事業者の役割】

【 備　考 】

②集積された地域資源活用

道の駅、みなと交流館、フェリー乗り場、キャンプ場、テニスコート、総合体育館、各種生涯スポーツ施設、海峡横綱ビーチ、横綱記念館、青函トンネル記念館等のレジャー観光資源と水産物、農産物等地元産品の活用と、多様なイベント開催・連動によりレジャー・スポーツ、観光の仕事化を進め、町の個性のＰＲと働く場、出会いの場を拡充する。

（重要度・緊急度：１グループ１位、３グループ１位）

【具体的取り組み】

★観光協会の法人化

観光の産業化に向け組織的活動（人・物・金・情報の集約による地域資源の最適活用）を展開するため、観光協会を法人化し、協会の機能強化に努める（新たなメニュー作りやＰＲ活動、交流人口の増加に向けた戦略的な営業活動、個別事業者等へのコンサルタント活動のできる団体として活動）。

・法人化当初の事業基盤の確保と町有観光関連施設の活性化に向け、施設管理の委託を受ける。

◎集積された地域資源活用

・観光の通年化に向けた施設整備。
そば打ち体験、ドッグラン、エミュー、スノーモービル等、通年通して観光できる施設整備。

・体験観光のメニュー作りと販売。
農業体験、漁業体験、（そば打ち、スルメの加工体験等）

・イベントの戦略的展開による誘客の促進。
施設全体で同時にイベントを起こす（同日開催や夏休みや秋の観光シーズンなどに期間を絞って、イベントウィークをつくるなど、イベントに連動、連続性をもたせ付加価値を高める）。
イベントを集中化させ、プレゼント付きスタンプラリー等を組み込むことにより回遊性を起こすなどの付加価値を生み出す。
例：ビーチ以外の場所でバーベキューができるようにし、他の施設を廻らせるようにする。
朝：朝市（水産物、農産物等）⇒昼：イカ祭りを開催、朝市で購入したもの等でバーベキュー等

・福島大神宮例大祭を町外向けイベントにする。
各種コンテストの実施、おもてなしの徹底

◎合宿の町としてのブランド化

・合宿の誘致（豊かな自然を活用した体力づくりの場として）。
例：「横綱の里」として、相撲に力を入れていることを踏まえ、相撲部等。

◎吉岡海底を使用できるように整備

【住民・事業者の役割】

・体験メニュー作りへ参加
・イベントへの参加協力
・商工会、千軒地域活性化実行委員会、旅館経営者、地域おこし協力隊

【 備　考 】

・まちおこし協力隊（福島町観光協会）との連携
・「福島地域マリンビジョン」との調和も今後の検討課題

③地域の食材（豊富な水産・農産物）を使った飲食サービス等の起業支援

市街地にある「食」をテーマとした新産業の育成と地域内回遊性の創出（中・外食等飲食）をめざす。

（重要度・緊急度：４グループ２位）

【具体的取り組み】

◎特色ある「食」の開発

町内の各種飲食店に黒米を使用した特色ある料理の開発、提供への取り組みに参加を求める。

飲食店が集まって商品を持ち寄り、良いものはどの店でも提供できるようにする。

・農村生活改善グループとの連携（水産商工課・ふくしま健康料理レシピ郷土料理編）
⇒東農大に協力を得る。まとめ役は行政。

・イカ、昆布等水産物、千軒そば、黒米（夢むらさき）、シイタケ、トウモロコシ等の地場産品の地域内ブランド化。
※昆布は、やわらか昆布がいちばん出汁がでる。
※黒米は、高血圧に効果があるといわれている。

・新商品開発にかかる経費の補助
※２－④と統合して取り組む
  ・地域の「食」の見直しと整理
  ・農村生活改善グループとの連携（水産商工課・ふくしま健康料理レシピ郷土料理編）
  ・イカ、昆布等水産物、千軒そば、黒米（夢むらさき）、シイタケ、トウモロコシ等の地場産品の地域内ブランド化

◎地元食材使用のグルメコンテストの実施

・グルメコンテストの実施
地元の料理の洗い出し

【住民・事業者の役割】

・町内飲食店に新商品を検討してもらう。（新商品の開発に参加を働きかけ、連携して取り組んでもらう）

【 備　考 】

④福島町の家庭の「食」のブランド化

地域の特産品、名物づくりの基本は地域の資源のブランド化にあります。町内の家庭でのイカ料理等から新たなブランドづくりを進め地域内消費からマーケットの拡大、全国発信につなげる。

（重要度・緊急度：２グループ２位、３グループ３位）

【具体的取り組み】

◎アンテナショップの運営　1-③と連動

「ちゃんこ鍋」⇒高校生に協力得て考えてもらう

地域の人を対象にしたコンテスト（賞金）

★コンテストについて：町のホームページ上で紹介されているレシピや、高齢者向けの食事としてのブランド化など。

・町のイベント等を利用して地場産品を利用したコンテストを開催する（パッケージと料理)。コンテストの周知はインターネット等も利用する。

※重要度は低いが、緊急度は高い（実現することは難しくない）

◎地元の物を使ったＢ級グルメなどを作る

・高校生が取り組んでいる黒米入りライスバーガーを福島町のＢ級グルメとして販売する。高校生が発案したＢ級グルメとしても注目性がある。レシピや商品の向上については、現在進行形で進んでいるのでその点でも実効性がある。

・グルメコンテストの実施

地元の料理の洗い出し

・新商品開発にかかる経費の補助

特色ある「食」が少なく開発が必要。

例：町内の各種飲食店に黒米を使用した特色ある料理の開発、提供への取り組みに参加を求める。

【住民・事業者の役割】

・コンテストへの参加

インターネット活用によるコンテスト

【 備　考 】

※２－③と連動

・地域の「食」の見直しと整理

・農村生活改善グループとの連携（水産商工課・ふくしま健康料理レシピ郷土料理編）

・イカ、昆布等水産物、千軒そば、黒米（夢むらさき)、シイタケ、トウモロコシ等の地場産品の地域内ブランド化

⑤地元の木材（林業）活用による林業の活性化

伐採事業を利用して木育や体験交流を促進し、雇用と交流人口の拡充をめざす。

（重要度・緊急度：４グループ３位）

【具体的取り組み】

◎地元木材を活用した木育の推進

・総合体育館等に木材を活用したプールやおもちゃがあるスペースの整備。

・木工体験を行う。

◎杉材の活用

桐木の次に軽くなる。

・とうもろこし（味来）３本を杉の箱に入れ販売（1箱１，５００円)。
箱に付加価値を付けるため、蓋をつけずに販売し、３箱購入すると蓋がつき、小物入れとして使えるようにする（箱を作るのは建具屋でも可能)。
東農大のキャンパスでも販売してもらう。

・木材を安く提供できるようにする。

・福島の木材で家を建てると、補助金などの特典を付ける。

・グリーンツーリズムの推進（殿様街道)。

・シーカヤックの作成。

・地域の木材を子どものおもちゃや建物への使用。

・木のブランド化、品質の調査

・林業の現状をＰＲする。

【住民・事業者の役割】

・町内の子ども達にたくさん活用してもらう。

【 備　考 】

⑥ブルーツーリズムやグリーンツーリズム、エコツーリズムの推進

水産物、農産物等の地域特産品のブランド化と地産地消の推進と、観光資源との連動した産業の活性化に努める。

（重要度・緊急度：３グループ２位、１グループ３位）

【具体的取り組み】

◎地域資源を活かしたツアー作る

岩部海岸、殿様街道など。

・作業体験型ツアーの中で「こんぶ」の体験作業をしてもらう（お金がもらえるツアー）。

◎食のイベントを開催する（かきニラ祭りのように）

海産物が良い

◎地場産品生産者の育成

千軒そば、トウモロコシ（夢みらい）、昆布、イカ、ブルーベリー、黒米等の地場産品の生産者を増やしＰＲする。

↓

・担い手を募集（福島商業高校、水産高校へ、町外者へ募集）

・町の助成金

【住民・事業者の役割】

・自らの食卓への取り込みと、口コミ等によるＰＲへの積極的な協力。

・各関係団体、地域おこし協力隊との連携。

【 備　考 】

・生産者への支援（助成）のあり方の検討

・集積された地域資源の活用と連動

⑦アクティブシニアと若者の協働

シニアが有するその豊富な知恵と技術、経験を活かし、自らの可能性を拡げる「起業の場」を若者に提供し、地域資源を最大限に活かして、若者と共に幅広い方面で活躍する「活動の場」を創出する。

（重要度・緊急度：　位）

【具体的取り組み】

◎シニアから若者への技能の伝承

・シニアが若者へ知恵や技術、経験を教える。
・シニアが持っている知恵・技術を明確化し公開する。
・学童にシニアの人材活用
・シニアへの就職支援

※１―②との連動

・職場体験の充実（他町へ行く等）
・長期的な資格取得講座
・商業高校で一般向けに技術取得の講座（夏休み等に先生に協力してもらえないか？福島町ジョブカフェみたいなものができないか？）
・女性が興味を持つような習い事や教室を開く。
・モニター（ブログ）の就労支援
・イカ刺しを作る教室や、千軒そば打ち教室を行う。
・地元の物を使ったＢ級グルメなどをつくる。

【住民・事業者の役割】

【 備　考 】

・仕組み等についての具体的策の検討

３．雇用・就業・起業支援等の情報ステーションの設置

①雇用・就業・起業支援等の情報ステーションの設置

町内に求人・求職・起業支援等の情報が一元化された相談場所を設置することにより、若者に町内企業の雇用情報を的確に提供し、水産業の発展可能性を積極的に伝えるなど、水産業への実知識を高めることで、町内での就業機会を拡充する。

また、地域の商工業従事者や勤労者の仕事のための学習機会を提供し、学びと仕事の連動をめざす。

（重要度・緊急度：２グループ３位）

【具体的取り組み】

◎福島町のハローワークを創り、そこで町の人を雇用する。

★ポイント：

近隣町（４町）を対象にして対応（設置するハローワークを通して雇用したら補助金等を出す)。高校等に働きかける。

ハローワークは町(行政)が設立するが、外部化し運営は人を雇い雇用を発生させる。ハローワークには就職支援・相談の窓口も設置。

・インターシップ、水産、農林の担い手等もハローワークで管理し、企業への就職とあわせて提案できるようにする。

※１－②に連動

・雇用、就業、起業の支援等について行政や商工会においてパイプ役を設置する。

※１－④と同じ

・求人情報の明確化（業者の情報を書面で役場が呼びかける。また、インターネット、ハローワークも活用する）口コミ、コネだけではダメ。

・高校生に対し収入などの業界情報、求人情報など集約した情報を提供する。

【住民・事業者の役割】

・企業等は情報を積極的に提供する。

・公設民営として運営する。

【 備　考 】

・福島版ジョブカフェ、地域若者サポートステーションの機能の付加

以上

Ⅰ　多様な雇用・就労の場の創出に向けた取り組み（案）

１グループ（重要課題）

重要度・緊急度	第１位	第２位	第３位
解決課題	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **②集積された地域資源活用**	**Ⅰ-1．起業家育成、仕事起こし、企業誘致などによる多様な雇用・就労の場の創出** **④町内の企業情報や求人情報の一元的な提供**	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **⑥ブルーツーリズムやグリーンツーリズム、エコツーリズムの推進**
内　　容	道の駅、みなと交流館、フェリー乗り場、キャンプ場、テニスコート、総合体育館、各種生涯スポーツ施設、海峡横綱ビーチ、横綱記念館、青函トンネル記念館等のレジャー観光資源と水産物、農産物等地元産品の活用と、多様なイベント開催・連動によりレジャー・スポーツ、観光の仕事化を進め、町の個性のＰＲと働く場、出会いの場を拡充する。	水産業の町として水産業（昆布等）で所得を得られることや、町内企業の求人情報等を若者に一元的に提供する。	水産物、農産物等の地域特産品のブランド化と地産地消の推進と、観光資源との連動した産業の活性化に努める。
取り組み	◎観光協会の法人化 観光の産業化に向け組織的活動（人・物・金・情報の集約による地域資源の最適活用）を展開するため、観光協会を法人化し、協会の機能強化に努める（新たなメニュー作りやＰＲ活動、交流人口の増加に向けた戦略的な営業活動、個別事業者等へのコンサルタント活動のできる団体として活動）。 ・法人化当初の事業基盤の確保と町有観光関連施設の活性化に向け、施設管理の委託を受ける。 ◎体験観光のメニュー作りと販売 ・農業体験、漁業体験、（そば打ち、スルメの加工体験等） ◎イベントの戦略的展開による誘客の促進 ・施設全体で同時にイベントを起こす（同日開催や夏休みや秋の観光シーズンなどに期間を絞って、イベントウィークをつくるなど、イベントに連動、連続性をもたせ付加価値を高める）。 ・イベントを集中化させ、プレゼント付きスタンプラリー等を組み込むことにより回遊性を起こすなどの付加価値を生み出す。 例：ビーチ以外の場所でバーベキューができるようにし、他の施設を廻らせるようにする。 朝：朝市（水産物、農産物等）⇒昼：イカ祭りを開催、朝市で購入したもの等でバーベキュー等 ・ＰＲをもっと行う。営業をする。（ネット、どさんこワイドなど） ・福島大神宮例大祭を町外向けイベントにする。 各種コンテストの実施、おもてなしの徹底	◎求人情報の明確化（業者の情報を書面で役場が呼びかける。また、インターネット、ハローワークも活用する）口コミ、コネだけではダメ。 ・高校生に対し、収入などの業界情報、求人情報などを集約した情報を提供する。 ◎漁業協働組合が若い人へ事業マニュアルの提供 （事業実施方法、事業収支などがわかる具体的マニュアル） ・漁業協働組合で漁業区画がいつ空くのか等の情報を発信。	◎食のイベントを開催する（かきニラ祭りのように）。 海産物が良い ◎千軒そば、トウモロコシ（夢みらい）、昆布、イカ、ブルーベリー、黒米等の地場産品の生産者を増やしＰＲする。 ↓ ・担い手を募集（福島商業高校、水産高校へ、町外者へ募集） ・町の助成金 ②集積された地域資源の活用と連動
住民・事業者等の役割	・体験メニュー作りへ参加 ・イベントへの参加協力	・積極的な情報提供	・自らの食卓への取り込みと、口コミ等によるＰＲへの積極的な参加
備　　考	・「福島地域マリンビジョン」との調和も今後の検討課題	・３－①情報ステーションの設置との関連性	・生産者への支援（助成）のあり方の検討（どこまで生産者が本気かわからない）

Ⅰ　多様な雇用・就労の場の創出に向けた取り組み（案）

２グループ（重要課題）

重要度・緊急度	第１位	第２位	第３位
解決課題	**Ⅰ-1．起業家育成、仕事起こし、企業誘致などによる多様な雇用・就労の場の創出** **③生活店舗、娯楽施設の誘致、豊かで潤いのある生活環境づくりの推進**	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **④福島町の家庭の「食」のブランド化**	**Ⅰ-3．雇用・就業・起業支援等の情報ステーションの設置** **①雇用・就業・起業支援等の情報ステーションの設置**
内　　容	商店主等の協力を得て、イカ・昆布など地域の特産品の活用と、カフェ、ファミレス等の飲食、ファッション衣料店、書店、ＣＤショップ、ゲームセンター、カラオケ等の誘致により若者、女性の就労の場を拡充する。	「Ｂ級グルメ、地域内消費⇒マーケット拡大・全国発信」 地域の特産品、名物づくりの基本は地域の資源のブランド化にあります。町内の家庭でのイカ料理等から新たなブランドづくりを進める。	町内に求人・求職・起業支援等の情報が一元化された相談場所を設置することにより、若者に町内企業の雇用情報等を的確に提供し、水産業の発展可能性を積極的に伝えるなど、水産業への実知識を高めることで、町内での就業機会を拡充する。 また、地域の商工業従事者や勤労者の仕事のための学習機会を提供し、学びと仕事の連動をめざす。
取り組み	◎コンビニ併設型特産品売り場を開設する（コンビニと特産品コーナー、カフェスペースが併設せれた、イートインを可能とした施設）。 ・アンテナショップ→町内にもつくる。 ・道の駅に食堂をつくる ・特産品を１箇所に集める ・温泉に食堂（千軒そば） ◎アンテナショップ、道の駅について 店として美味しいものは福島町内に幾つもあるが、それが今、**点として存在**しているのが現状である。そこでそれらを集約する場として（道の駅に）食事ができる場所を作る。小さな規模（簡易的な施設で可）でスタートさせ、ニーズをリサーチし結果を評価し、段階的な規模拡大をめざす。これは、雇用の創造にも一役買い、また、職のブランド化にも有効であり、２－①、２－③、２－④にも関連がある ★点として存在しているもの例 千軒そば、黒米、横綱スルメ、やわらか昆布、千切り昆布、昆布塩、なりやさんのケーキ、ばんらい軒さんのギョウザ、タイムさんのタイム風焼きそばｅｔｃ。	◎アンテナショップの運営　1-③と連動 「ちゃんこ鍋」⇒高校生に協力得て考えてもらう 地域の人を対象にしたコンテスト（賞金） ★コンテストについて：町のホームページ上で紹介されているレシピや、高齢者向けの食事としてのブランド化など。 ・町のイベント等を利用して地場産品を利用したコンテストを開催する（パッケージと料理）。コンテストの周知はインターネット等も利用する。 ※重要度は低いが、緊急度は高い（実現することは難しくない） ※２－③との関連性は。 ・地域の「食」の見直しと整理 ・農村生活改善グループとの連携（水産商工課・ふくしま健康料理レシピ郷土料理編） ・イカ、昆布等水産物、千軒そば、黒米（夢むらさき）、シイタケ、トウモロコシ等の地場産品の地域内ブランド化	・福島町のハローワークを創り、そこで町の人を雇用する。 ★ポイント： 近隣町（４町）を対象にして対応（設置するハローワークを通して雇用したら補助金等を出す）。高校等に働きかける。 ハローワークは町(行政)が設立するが、外部化し運営は人を雇い雇用を発生させる。ハローワークには就職支援・相談の窓口も設置 ・インターシップ、水産、農林の担い手等もハローワークで管理し、企業への就職とあわせて提案できるようにする。 ※１－②に連動 ・雇用、就業、起業の支援等について行政や商工会においてパイプ役を設置する。 ※重要度は中、緊急度は高い（費用は少なくする方法を検討する）
住民・事業者等の役割	民営で運営 ・町内各商店との連携方法の検討（商工会、商店街連合会等との連携）	コンテストへの参加 インターネット活用によるコンテスト	・企業等は情報を積極的に提供する。 ・公設民営として運営する。
備　　考	・雇用創造や食に関するブランド化等に有効と思われるので、重要度、緊急度ともに高い		・福島版ジョブカフェ、地域若者サポートステーションの機能の付加

Ⅰ　多様な雇用・就労の場の創出に向けた取り組み（案）

３グループ（重要課題）

重要度・緊急度	第１位	第２位	第３位
解決課題	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **②集積された地域資源活用**	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **⑥ブルーツーリズムやグリーンツーリズム、エコツーリズムの推進**	**Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出** **④福島町の家庭の「食」のブランド化**
内　　容	道の駅、みなと交流館、フェリー乗り場、キャンプ場、テニスコート、総合体育館、各種生涯スポーツ施設、海峡横綱ビーチ、横綱記念館、青函トンネル記念館等のレジャー観光資源と水産物、農産物等地元産品の活用と、多様なイベント開催との連動によりレジャー・スポーツ、観光の仕事化を進め、町の個性のＰＲと働く場、出会い・交流の場を拡充する。	水産物、農産物等の地域特産品のブランド化と地産地消の推進と、観光資源との連動した産業の活性化に努める。	「Ｂ級グルメ、地域内消費⇒マーケット拡大・全国発信」 地域の特産品、名物づくりの基本は地域の資源のブランド化にあります。町内の家庭でのイカ料理等から新たなブランドづくりを進める。
取り組み	◎吉岡海底を使用できるように整備する。 ◎外向けに発信できるような、飲食店、記念館、道の駅を合体したような施設。⇒道の駅を作る（千軒地区） ・そば打ち体験、ドッグラン、エミュー、スノーモービル等通年通して観光できる施設。	◎地域資源を活かしたツアー作る。 （岩部海岸、殿様街道など）	◎地元の物を使ったＢ級グルメなどを作る ・高校生が取り組んでいる黒米入りライスバーガーを福島町のＢ級グルメとして販売する。 高校生が発案したＢ級グルメとしても注目性がある。 レシピや商品の向上については、現在進行形で進んでいるのでその点でも実効性がある。
住民・事業者等の役割	商工会、千軒地域活性化実行委員会、旅館経営者、 地域おこし協力隊	各関係団体、地域おこし協力隊	各商店、高校生
備　　考	・まちおこし協力隊（福島町観光協会）との連携 ・「福島地域マリンビジョン」との調和も今後の検討課題		

Ⅰ　多様な雇用・就労の場の創出に向けた取り組み（案）

４グループ（重要課題）

重要度・緊急度	第１位	第２位	第３位
解決課題	1-1．起業家育成、仕事起こし、企業誘致などによる多様な雇用・就労の場の創出 ④町内の企業情報や求人情報の一元的な提供	Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出 ③地域の食材（豊富な水産・農産物）を使った飲食サービス等の起業支援	Ⅰ-2．新たな産業（商・観光等）の創出 ⑤地元の木材（林業）活用による林業の活性化
内　　容	水産業の町として水産業（昆布等）で所得を得られることや、町内企業の求人情報等を若者に一元的に提供する。	「食」をテーマとした新産業の育成と地域内回遊性の創出（中・外食等飲食）	伐採事業を利用して木育や体験交流を促進し、雇用と交流人口を拡充する。
取り組み	◎昆布養殖事業のモデル化の確立 ・マニュアル的なものを作って、新規就漁しやすくする。 （現実的にはハードルは高い） ・漁組、漁業者、役場協力のもと、経費等の把握を行い事業マニュアルを作成する。 ◎メールマガジンを活用した求人情報の提供 ・メールマガジンのこまめな発行と各事業所のアルバイト等の求人情報の把握。アルバイト情報等を一括で管理し送信（各関係機関の協力が必要）	◎特色ある「食」が少なく開発が必要。 例：町内の各種飲食店に黒米を使用した特色ある料理の開発、提供への取り組みに参加を求める。 飲食店が集まって商品を持ち寄り、良いものはどの店でも提供できるようにする。 ・農村生活改善グループとの連携（水産商工課・ふくしま健康料理レシピ郷土料理編）⇒東農大に協力を得る。まとめ役は行政 ・イカ、昆布等水産物、千軒そば、黒米（夢むらさき）、シイタケ、トウモロコシ等の地場産品の地域内ブランド化 ※昆布は、やわらか昆布が１番出汁がでる。 ※黒米は、高血圧に効果があるといわれている。 ・新商品開発にかかる経費の補助 ※２－④と統合して取り組む	◎地元木材を活用した木育の推進 （総合体育館等に木材を活用したプールやおもちゃがあるスペースの整備） ◎杉材の活用 桐木の次に軽くなる ・とうもろこし（味来）３本を杉の箱に入れ販売。 （1箱１，５００円） 箱に付加価値を付けるため、蓋をつけずに販売し、３箱購入すると蓋がつき、小物入れとして使えるようにする（箱を作るのは建具屋でも可能）。 東農大のキャンパスでも販売してもらう。
住民・事業者等の役割	・モデル化に向けての協力 ・メルマガへの情報提供の積極的な提供	・町内飲食店に新商品を検討してもらう。	・町内の子ども達にたくさん活用してもらう
備　　考	・３－①情報ステーションの設置と連動	※２－④と連動 ・地域の「食」の見直しと整理	